

細見谷溪畔林を訪ねて

連休に帰ってきた息子達夫婦に2日間付きあって少し疲れたかなというとき、中国新聞に細見谷溪畔林を訪ねる市民対象のセミナーの案内が目にとまり、早速代表の金井塚氏に電話で参加申し込みをしたがすでに参加枠がうまり車の席がないとのこと、労山加盟者であることを告げると、何と一人分席をつめましようということで早速長靴とデジカメそして1995・9に広島県勤労者連盟自然保護部から発行された十方の山と谷＜十方調査登山中間報告書＞細見谷源流域の十方林道大径木位置図をコピーし参考資料として持って中津谷分岐に駆けつけた。

現地には3台のジープが配備され参加者はこれに分乗し、断層の発達した切取り法面崩壊箇所、営林署小屋跡、オバコ谷のわさび田付近および下山林道入口の4地点で下車し金井塚氏から溪畔林の説明を受けた。溪畔林は干潟同様、種の多様性に富み月の輪熊のような大型の動物、小型の両生類を含む動植物、昆虫類が高密度で暮らせる豊かな森で水の

H18・5・4 竹野 弘

供給に変化が起きるとたちまち消滅する危険がある。地形的に侵食が少なく、サワグルミが最初に生えるのが特徴的でトチ、ミズナラ、他所にはない太いツルのヤマブドウとサルナシ等々が観られた。雪解けがやっと終わり木々の芽吹きが始まったころ森に棲む小さな生物に生きかたを教えられ、草木の陰にひそむ妖精達や鳥の歌に心奪われ風のエリアに心躍らせると言う風情でしょうか。林道脇のわずかな湿地に泳ぐヒキガエルのオタマジヤクシと透明な紐状卵、ワサビ田の沢筋の石ころをめくると体長7～8cmの茶褐色のサンショウウオとかカゴカエルが現れる度に参加者の歓声があがる。ボーギのキビレ(横川越え)の上空にクマタカが優雅に2羽飛遊している木の葉と昆虫、水中昆虫→これを捕食するゴギ→鳥や熊と生態系の輪廻がみごとに観察され自然保護の大切さを考えさせられた貴重な一日でした。10数年前に調査をなされた広島県勤労者山岳連盟の先達に感謝致します。



初めてのミニ山行

6月7日9時30分から約2時間、堂垣内さんの案内で「柚木城山」の己斐峠～学院コースを歩きました。鳥の声と緩いアップダウンが心地よく、笹百合にも会えました。ぬた場は2つ。『陸軍輸送港域第一区』の標識もありました。市街が一望出来る小広場で休憩。地元の人達が木立を切って広

坪倉 民子

場に変えたそうです。土嚢や杭で山道が補修されていました。26年前に己斐山の団地に来てから、国泰寺の上の平坦な稜線を歩いてみたいと思いつけていたので、とてもうれしかったです。今度は初冬に行く予定です。会の山行にもそろそろ加わりたいと思っています。